No.

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 4月 1日

山県東部生コン株式会社
広島県山県郡北広島町有田

配合計画者名　竹本　和道

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月21日～6月20日 / 9月11日～11月20日 標準配合。左記以外の期間は備考欄に記述（標準配合）
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載	
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	－	
				BB	
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³	
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	－	コンクリートの温度	最高・最低 － ℃	
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60 %	
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³	
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³	
	呼び強度を保証する材齢	28 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm	
	空気量	4.5 %			

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社	密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq %	－	
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq % －
混和材②		－		－		－	

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分 区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	表乾	微粒分量の範囲%
細骨材	①	砕砂	安芸高田市八千代町向山	A	化学法	5mm以下	3.10	－	2.59	7.0±2.0
	②	加工砂	広島市安佐北区可部町綾ケ谷	A	化学法	5mm以下	2.80	－	2.55	3.0以下
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石2010	安芸高田市八千代町向山	A	化学法	20～10mm	7.00	－	2.72	0.5±0.5
	②	砕石1505	安芸高田市八千代町向山	A	化学法	15～ 5mm	6.30	－	2.70	0.5±0.5
	③	砕石4020	安芸高田市八千代町向山	A	化学法	40～20mm	7.95	－	2.72	0.5±0.5
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	ｼｰｶ ﾋﾞｽｺﾌﾛｰ700 Rsure	種類	AE減水剤標準形（Ⅰ種）	Na_2Oeq % －
混和剤②		－		－	－
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	②0.000%		水の種類	地下水,上澄み水	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－	%
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－	

配合表 kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
280	－	－	157	332	492	－	367	259	419	－	2.38	－	－

水セメント比	56 %	水結合材比	－ %	細骨材率	45.5 %

備考

骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については断りなしに変更する場合がある。
修正標準配合として次に示す適用期間の間、混和剤①の単位量のみ変更いたします。
また、夏期修正標準配合期間内についてはAE減水剤遅延形（Ⅰ種）を使用する場合がある。
夏期：6月21日～9月10日　C×1.05%　　冬期：11月21日～3月20日　C×0.55%

配 合 計 算 書

配合の設計条件					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項	W/C≦60%				

(1)変動係数(v)　　当工場の実績により　v = 10 %

(2)配合強度(m)

$$m_1 = \frac{1 \cdot S_L}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 30.0 \ N/mm^2$$

よって　m = 30.0 N/mm²

(3)水セメント比(W/C)　m = -8.33 + 21.60 × C/W

W/C = 21.60 ÷ (30.0 + 8.33) × 100 = 56 % ≦【60%(上限値)】

∴W/C = 56 %

(4)単位水量(W)　　当工場の実績により　W = 157 kg/m³

(5)単位セメント量(C)　　C = W ÷ (W/C) × 100 = 157 ÷ 56 × 100 = 280 kg/m³

Cv= C ÷ 密度 = 280 ÷ 3.04 = 92 L/m³

(6)空気量(A)　　A = 4.5 % × 1000 = 45 L/m³

(7)単位粗骨材量(G)　当工場の実績により　かさ容積 = 0.611 m³/m³　　実積率 = 63.0 %

Gv = 0.611 × 1000 × 63.0 ÷ 100 = 385 L/m³

G1v = Gv × 35.0 % = 135 L/m³　　G1= G1v×表乾密度 = 135 × 2.72 = 367 kg/m³

G2v = Gv × 25.0 % = 96 L/m³　　G2= G2v×表乾密度 = 96 × 2.70 = 259 kg/m³

G3v = Gv × 40.0 % = 154 L/m³　　G3= G3v×表乾密度 = 154 × 2.72 = 419 kg/m³

(8)単位細骨材量(S)　　Sv = 1000 − (W+Cv+Gv+A) = 1000 − 679 = 321 L/m³

S1v = Sv × 40.0 % = 128 L/m³　　S1= S1v×表乾密度 = 128 × 2.59 = 332 kg/m³

S2v = Sv × 60.0 % = 193 L/m³　　S2= S2v×表乾密度 = 193 × 2.55 = 492 kg/m³

(9)細骨材率(s/a)　　s/a = Sv ÷ (Gv+Sv) × 100 = 45.5 %

(10)単位混和剤量(Ad)　　Ad = C × 添加率 = 280 × 0.85 % = 2.38 kg/m³

配 合 表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
280	−	−	157	332	492	−	367	259	419	−	2.38	−	−

水セメント比	56 %	細骨材率	45.5 %

備考

No.

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 4月 1日

山県東部生コン株式会社
広島県山県郡北広島町有田

配合計画者名　竹本　和道

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	6月21日～9月10日 (夏期修正標準配合)
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項(必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載	
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	－	
				BB	
指定事項(任意)	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³	
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	－	コンクリートの温度	最高・最低	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60 %	
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³	
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³	
	呼び強度を保証する材齢	28 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm	
	空気量	4.5 %			

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社	密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq %	－	
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq % －
混和材②		－		－		－	

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分 区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	表乾	微粒分量の範囲%
細骨材	①	砕砂	安芸高田市八千代町向山	A	化学法	5mm以下	3.10	－	2.59	7.0±2.0
	②	加工砂	広島市安佐北区可部町綾ケ谷	A	化学法	5mm以下	2.80	－	2.55	3.0以下
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石2010	安芸高田市八千代町向山	A	化学法	20～10mm	7.00	－	2.72	0.5±0.5
	②	砕石1505	安芸高田市八千代町向山	A	化学法	15～ 5mm	6.30	－	2.70	0.5±0.5
	③	砕石4020	安芸高田市八千代町向山	A	化学法	40～20mm	7.95	－	2.72	0.5±0.5
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	ｼｰｶ ﾋﾞｽｺﾌﾛｰ705 Rsure	種類	AE減水剤遅延形（Ⅰ種）	Na_2Oeq % －
混和剤②		－		－	－
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	②0.000%	水の種類	地下水,上澄み水	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－ %
回収骨材の使用方法	細骨材 －	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－

配合表 kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
280	－	－	157	332	492	－	367	259	419	－	2.94	－	－

水セメント比	56 %	水結合材比	－ %	細骨材率	45.5 %

備考

骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については断りなしに変更する場合がある。
修正標準配合として次に示す適用期間の間、混和剤①の単位量のみ変更いたします。
また、夏期修正標準配合期間内についてはAE減水剤遅延形（Ⅰ種）を使用する場合がある。
夏期：6月21日～9月10日　C×1.05%　　冬期：11月21日～3月20日　C×0.55%

配 合 計 算 書

配　合　の　設　計　条　件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項	W/C≦60%

(1)変動係数(v)　　当工場の実績により　v ＝ 10　%

(2)配合強度(m)

$$m_1 = \frac{1 \cdot S_L}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 30.0\ N/mm^2$$

よって　m ＝ 30.0　N/mm²

(3)水セメント比(W/C)　m ＝ -8.33 ＋ 21.60 × C/W

W/C ＝ 21.60 ÷ (30.0 ＋ 8.33) × 100 ＝ 56 % ≦【60%(上限値)】

∴W/C ＝ 56　%

(4)単位水量(W)　　当工場の実績により　W ＝ 157　kg/m³

(5)単位セメント量(C)　　C ＝ W ÷ (W/C) × 100 ＝ 157 ÷ 56 × 100 ＝ 280　kg/m³

Cv＝ C ÷ 密度 ＝ 280 ÷ 3.04 ＝ 92　L/m³

(6)空気量(A)　　A ＝ 4.5 % × 1000 ＝ 45　L/m³

(7)単位粗骨材量(G)　当工場の実績により　かさ容積 ＝ 0.611 m³/m³　　実積率 ＝ 63.0 %

Gv ＝ 0.611 × 1000 × 63.0 ÷ 100 ＝ 385　L/m³

G1v ＝ Gv × 35.0 % ＝ 135　L/m³　　G1＝ G1v×表乾密度 ＝ 135 × 2.72 ＝ 367　kg/m³

G2v ＝ Gv × 25.0 % ＝ 96　L/m³　　G2＝ G2v×表乾密度 ＝ 96 × 2.70 ＝ 259　kg/m³

G3v ＝ Gv × 40.0 % ＝ 154　L/m³　　G3＝ G3v×表乾密度 ＝ 154 × 2.72 ＝ 419　kg/m³

(8)単位細骨材量(S)　　Sv ＝ 1000 － (W＋Cv＋Gv＋A) ＝ 1000 － 679 ＝ 321　L/m³

S1v ＝ Sv × 40.0 % ＝ 128　L/m³　　S1＝ S1v×表乾密度 ＝ 128 × 2.59 ＝ 332　kg/m³

S2v ＝ Sv × 60.0 % ＝ 193　L/m³　　S2＝ S2v×表乾密度 ＝ 193 × 2.55 ＝ 492　kg/m³

(9)細骨材率(s/a)　　s/a ＝ Sv ÷ (Gv＋Sv) × 100 ＝ 45.5 %

(10)単位混和剤量(Ad)　　Ad ＝ C × 添加率 ＝ 280 × 1.0500 % ＝ 2.94　kg/m³

配　合　表　kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
280	－	－	157	332	492	－	367	259	419	－	2.94	－	－

水セメント比	56 %	細骨材率	45.5 %

備考